

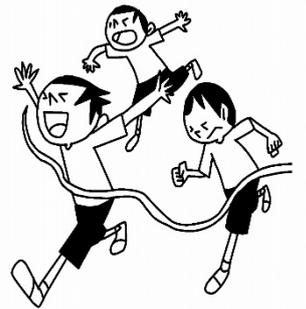


# 克己

第58号

発行日  
平成30年12月21日

発行  
天城中学校 PTA  
編集 広報委員会



## 学び続けることの大切さ

校長 日吉 隆徳

全国で年間約六万人の方が心臓異常によって亡くなっているというショッキングな事実。今年の家庭教育学級は、AED講習会を行いました。十数名の保護者と三年生を対象に実施しましたが、わたしたち教員にとっても大切な研修になりました。

数年前、埼玉の小学校で一人の少女が倒れ、そのときの少女の状態が「死戦期呼吸」というものでした。すぐに胸骨圧迫（心臓マッサージ）が必要な状態でしたが、その時の呼吸が正常なものでないことを誰も見抜けず、AEDは使われないままその少女は亡くなってしまいました。

この教訓をもとに、埼玉ではASUKAモデルというマニュアルをつくり、小学生から高校生まで、AEDの講習会を受講する仕組みを作ったそうです。

わたしは、過去に何度かこうした講習会を経験してきましたが、「死戦期呼吸」という言葉を聞いたのは今回が初めてでした。

もし、自分の目の前で埼玉の事例と同じことが起こったら、適切に判断し、行動するこ

とができたでしょうか。今回のように最新の知識を学ぶ機会がなかったら、最悪の結果になっていたかもしれない。そう思ったとき、はたと気づくことがあります。

それは、「学び続けることの大切さ」です。知っている、経験したことがあると高をくくり、最新の情報を学んでいかなかったら、間違った判断をしてしまう危険があるということです。どんなことからでも学ぼうとする姿勢が大切なのだと思いました。

今年、各地で大きな災害が相次ぎました。スーパードランティアとして一躍注目を集めた尾畠春夫さんも、日々ボランティアを続ける中で、学び続けている人の一人だと思えます。幼い子どもの命を救うことができたのも、豊富な経験から得た学びが役立つのだと思います。

学校では、子どもたちに指導する一方で、子どもたちから学ぶことがたくさんあります。わたしも、学び続ける教員でありたいと思います。



## 感動感謝

PTA副会長 鈴木 朗

私の子どもは三年生になります。私自身はこれまでほとんど学校へ行ったことがありませんでした。

しかしながら今年度は、役員をやらせて頂いたお陰で学校へ行く機会が増え、行事のお手伝いをする事もできました。

特に葵流祭体育の部では、朝一番での駐車場係を終えると、二年目にして初めて、録画ではないリアルな競技を観ました。『乱？嵐？RUN』では〇・二秒が勝敗を分け、『背渡り』は青組がノーマスで勝利（渡り手は三連覇）、『騎馬戦』や『リレー』も、中学生ともなると迫力があり、観る側も緊張が走ります。普段の生活には無いハラハラドキドキ、そして『感動』を貰い、涙が溢れてきました。そんな子どもたち全員に『ありがとう』を、そして家では見せない成長した姿の我が子に『感動感謝』を伝えたいです。

## ありがとう

PTA副会長 田中 みどり

先日、外出先から帰る車内、天城の山々を見て「やっぱ、落ち着く。」と息子が言いました。引越してしばらく経ったある日、「前の幼稚園に戻り

い。」と園庭の真ん中で泣いていたことを思い出しました。

あれから十年。泣いていた息子はみんなの前で楽器を演奏したり、友達と力を合わせて優勝を目指したり、本当にたくましく成長しました。

天城の自然を学び、天城の人たちに触れ、親友と出会い、人生の中の土台となる大切な時期を天城で過ごすことができたことに感謝します。ありがとうございました。

## 守らない！見守るの！

PTA副会長 小泉 慶子

人生八十年・・・あなたの人生時計は今、何時？

人生時計？娘たちとググってみました。人の一生を二十四時間に置き換えたときの時間のことでした。四十代はお昼下がりの十二〜十五時にあり、一日の中でもオンタイム、充実している時間帯です。

十代の中学生は朝の三〜六時、まだ日も上がっていない時間です。一日の中で言えば、新しい朝の為にしっかりと眠る時です。自分の人生を歩むために力を蓄える時期にいる娘たちに、今は先生や両親、周りの大人に守られながら何となく敷かれたレールの上を走って

きているけれど、自分の人生、自分の道を、勇気を持って選択して行ってほしいです。これからは楽しみながら見守って

いく子育てをしたいです。

## 祖母の教え

総務委員長 浅田 直子

小さい頃から私の祖母は、「初めつから『ムリ』って言うな。」とよく言った。

何もしないうちから『できるか』『できないか』の判断を自分でするな。もし実際にやってみて、本当にどうしてもできなかったときにそう言え。軽々しく口に出してはいけない言葉なのだ。

親もそう。子どもを頭ごなしに叱る前に、よく話を聞き、ほめて、なだめて、家族なら笑って応援してやんなよ。

ばあちゃんは何でもよくお見通しだ。つい一言：余計なことを：言つてたかもな。

ちよつとしたときに、祖母の言葉が浮かぶ。その後「ヤバイ。似てきたかも？」と、一人ニヤつくことが多くなってきた。

## 友達

施設委員長 大川 茂生

「友達」と一言で言っても様々だと思います。学生時代からの友達、社会に出れば会社の友達、性別で分けても色々な友達がいます。

人が生きていく中で、楽しいことや悲しいこと、色々な

ことが起こる訳ですが、自分一人では乗り越えられないことが出てきます。そんな時に、自分と同じ価値観を共有できる「友達」が、支えになってくれると思います。

私は五十三歳になった今でも、毎月中学の同級生五人で一杯会をやっています。会社も全然違いますが、十代の頃と変わらず馬鹿話に花を咲かせたり、四〜五年に一度、旅行に行ったりもしています。

子ども達にも生涯にわたって付き合える大切な「友達」を一人でも多くつくって貰えたらと思います。

## コンクール出場

生活委員長 浅田 ゆり子

七月、TBSこども音楽コンクール地区大会に芸術部が出場しました。例年の部活動と言え、病院等や葵流祭文化の部での演奏が主だったので、コンクールの話を聞いたときは、『経験したことが無い子どもたちが出場して大丈夫？演奏できるの？』と心配でした。

大会は、当日リハーサル無し本番のみ。しかし、子どもたちは思いのほか緊張している様子も見せず、すべてを出し切ろう感を前面に出したステージに見えました。練習してきた以上の演奏ができたのではないのでしょうか。

大会を経験したことで、少しでも自分に自信を持ち、これからの過ごし方についてもらいたいと思います。

## 成長

広報委員長 堀江 章代

この前中学に入学したと思つたのに、あと数ヶ月で卒業です。それほどに中学三年間はあっという間に過ぎていきました。

中一の頃は、ただ中学の生活に慣れるのに必死だった娘も、大きなイベントで活躍する先輩たちを見て、中学生の在り方を学んだように思います。身体はもろろん、心も大人へ変わっていく、意見がぶつかることや気づかされること、少し前の娘には理解できなかったことが今の娘には理解できること。忙しい日々の中、こうした成長をただ何となく感じて過ごしてしまいましたが、これからは温かく見守っていききたいと思います。



# 地域交流会

10月5日、午前は葵流祭文化の部でしたが、午後は8つの講座に分かれて地域交流会が行われました。天城の多様な文化にふれる貴重な機会を得て、楽しみながら学習しました。



## 天城連峰太鼓



1A 田中 颯真

天城連峰太鼓では、ストレッチ・曲を一曲覚えるなどのことをやりました。足の構え方が大変でした。最後には、二チームに分かれて曲の発表をしました。手にはまめがで、難しかったけれど、上手に演奏ができたのでよかったです。

## わさび料理



2A 飯田 麻裕

二回目の体験でしたが、わさびの茎を細かく刻むとき、香りが漂い、心地よかったです。わさび漬け、わさび味噌、三杯酢を試食したらどれもとてもおいしかったです。「天城の名産はわさびだ。」という実感がわきました。

## 和菓子づくり



3B 小泉 璃奈

私は前回この講座を受講し、楽しかったので今回も和菓子にしました。「味噌・黒米・よもぎ」の三種類の小麦まんじゅうを作りました。生地の中にあんこを入れ、丸めるのが難しかったけれど、おいしく作れたので良かったです。

## 押し花アート



3B 堀井 菜名

私は三年間、地域交流で押し花をやってきました。いっもどんな花を使って、どんな作品を作るか悩みました。一、二年生の時は、なかなか納得のいく作品ができませんでしたが、三年間やってきたお陰で、納得のいく作品を作ることができました。

## 茶道



3A 堀江 結衣

私は不器用なので「茶道」に決まったとき、少し焦ってしまいました。しかし、先生方が優しく丁寧に教えてくださったので、しっかりと作法を覚えることができました。また、心配していたお茶たても上手にできて嬉しかったです。

## 鮎釣り



3B 西川 航輝

今回の鮎釣りは台風の影響で、学校で鮎に関する講話と塩焼きを体験しました。塩焼きは塩加減が難しかったです。僕は、二年連続で鮎釣りをを選び、前回は釣りができたので良い体験になりました。貴重な体験ができました。

## 竹細工



3A 鈴木 雄太

僕は、今回初めて竹細工を体験して、「トンボ」を作りました。僕は不器用だけれど、作るのがとても楽しかったし、何よりも完成したときはとても嬉しかったです。一人ではできないことができて、良い思い出になりました。

## 陶芸



3B 山本 空

私は初めて陶芸をやりました。もみじ柄の湯飲みを作りました。回しながら形を作っていくことから始めました。色塗りのときに色のはじいてしまいなかなかつかず大変でした。でも、細かく作れて楽しかったです。きれいにできているといいです。

# 葵流祭

体育の部

## 初めての体育の部

1A 本多 永和

今回、中学生初の葵流祭でした。その中で自分は、大縄跳びの回し手や学級対抗リレーのアンカーをやり、色々な場面で活躍することができました。小学校の運動会とは違い、係の仕事や競技に出ているので、応援席に座っている時間は少なかったです。そんな中でも一生懸命頑張っている先輩をみて、「カッコいい」と思いました。「そんな先輩になりたい。」今回の葵流祭を通じて感じた思いを大切にしたいと思います。



## 初めての応援団員

2A 荒田 大輝

僕は今年初めて応援団員になりました。声がしっかり出せるか心配でしたが、本番では青組が勝てるように頑張りました。ダンスも、最初は不安でしたが、しっかり踊ることができました。練習している時、分からないことがたくさんありました。しかし、何度も練習して踊れるようになりました。今回初めて経験して大変でしたが、精一杯応援することができて良かったです。



## 「団長」

3A 三井 真斗

「この僕が団長！」四月には思ってもいませんでした。僕は生まれてから一度も、人の前に立ち、率いるようなことをしたことがありませんでした。僕は団長になったとき不安でしたが、わくわくした気持ちもありました。団長として体育の部の練習に本気で取り組み、青組をまとめました。団長を経験して、自分に自信をもてるようになりました。今までの人生で、最も自分が成長できた経験になりました。



# 葵流祭 文化の部

## 文化の部の可能性

3B 三田 佳澄

生徒会執行部として、舞台袖から文化の部を見ました。

新企画のオープニングと寸劇はとても面白く、新鮮でした。芸術部の演奏もリコーダーだけではなく、管楽器を扱っていました。聴いたことのない音色を聴くことができてとても嬉しかったです。他にも、バンド演奏、新体操、和太鼓。これまでのどの文化祭りよりも新しく、今後の文化祭の可能性を見た気がしました。全校生徒が一体になった文化の部でした。



## 二年A組の「ヒカリ」

2A 小澤 芽依

一学期、二年生の合唱はクラス合唱「ヒカリ」、学年合唱「結」に決まりました。この二つは曲想が全然違います。それぞれどういう思いで歌えばいいのか、それが私たちの課題でした。また、伴奏者になり練習を工夫し、曲の目当てを考えました。大変でしたが、練習していくうちに成長を感じられました。そして本番。見事、最優秀賞を獲得することができました。私たちの創りあげた「ヒカリ」で。



## 指揮者への道

1B 佐藤 栞

私の兄は、三年間指揮者をやりました。そんな兄のようになりたいと思って、私は指揮者に立候補しました。練習をする時、アルトとテノールの声がなかなか出ず、とても苦労しました。練習をしていくにつれてだんだん声が出るようになりました。本番当日、一名欠席というハプニングがありながらも、みんなで歌いきることができました。最優秀賞を獲得することができたので、とても良い思い出になりました。

# 自然体験 (1年)

## 今、守るべきもの

1A 小泉 樺那

自然体験を通して、「天城の現状を目の当たりにした」というのが私の感想です。

八丁池・旭滝・スコリア丘など、天城は自然に囲まれています。その大自然は、いつまでも当たり前前に保たれていくと思いがちですが、一部がなくなりました。山を登っていくと、木の皮が剥がされ、荒らされていることに驚きました。「天城の歴史」と「天城の自然」を守るために、私たちにできることをやっていきたいです。



# 職場体験(2年)

## 仕事の大変さ

2A 田中 愛夢留

私は中島病院で職業体験をさせてもらいました。

一日目、二日目は主に病院内を見学しました。そこで気づいたことは、お年寄りの方と話すときは目を合わせたり、聞こえる声で話したりするなどの工夫をしているということです。

三日目は、病院の厨房の中を見学させてもらいました。一般家庭とは異なり、とても大きな鍋で調理していました。



# 地域学習(3年)

## 体験して分かること

3A 浅田 泰志

僕たちは天城学習の一環として、自転車伊豆市の観光地を散策しました。二〇二〇年オリンピック・パラリンピックが行われるのに伊豆市ではあまり自転車ムードがないような気がします。実際に走ってみると道路がボコボコだったり道幅が狭い場所が多くあったりして危険でした。最後に、サイクルラックバスに自転車を乗せて帰ってきました。東海バスの運転手さんが親切に教えてくださり、良い経験ができました。



## 編集後記

「克己」58号を発行するにあたり、原稿を寄せてくださった皆様に心より御礼申し上げます。行事の写真から子どもたちの成長を感じていただけただけ幸いです。

広報委員一同

